

合津マリンステーションが 文科省「教育関係共同利用拠点」に認定されました

合津マリンステーションが、「教育関係共同利用拠点」（平成25～30年）として文部科学大臣の認定を受けました。

本制度は、各大学が自らの強みを持つ分野へ取組を集中・強化するとともに、他大学との連携を進め、大学教育全体として、より多様で高度な教育を展開していく取組で、大学の機能分化の促進や大学間ネットワークの構築を進める上で大きな役割を果たすものです。なお、拠点運営のための予算が別途配分されます。

合津マリンステーションでは、合津臨海実験所として開設以来、50余年に渡って、本学の学生はもとより、他大学の学生や小中高校生・教員・市民に、海洋生物や沿岸環境保全に関する講義・実習や観察会を続けてきました。今回の認定はこのような取組が認められたものです。

今後は、「有明海・八代海の干潟・浅海域の生物との実体験を通して学ぶ教育拠点—化石から現生生物までを実体験で学ぶ教育拠点—」と銘打ち、これまでスタッフが取り組んできた有明海・八代海をはじめとする干潟・浅海域を対象とした海洋生態の講義・実習はもとより、天草の特色のひとつでもある地球科学（化石・地層）の講義・実習も取り入れ、「地球と生物のダイナミックな歴史を学ぶ臨海施設」として発展していきたいと考えています。

そのためには、本施設の人員・設備を充実させるとともに、学内外の研究者・職員や地元の方の御支援・御協力が今まで以上に必要になってまいります。合津マリンステーションが取り組む「有明海・八代海の干潟・浅海域における地球と生物のダイナミックな歴史を学ぶ教育事業」への皆様の御支援・御鞭撻を心からお願い申し上げます。

有明海・八代海の干潟・浅海域の生物との実体験を通して学ぶ教育拠点事業

—化石から現生生物までを実体験で学ぶ教育拠点の形成—

教育拠点として、複合的・学際的な教育カリキュラムに実体験を融合させた能動的な学修教育の実施により、海洋への関心を深め、さらには予測困難な時代を生きる若者へ、質の高い潜在的能力を身につけさせる。

